

中野区基本構想改定検討素案について

中野区基本構想検討素案（以下「検討素案」という。）について、以下のとおり改定する。

1 改定の主旨

以下の点を踏まえ、検討素案を、中野区基本構想改定検討素案（以下「改定検討素案」という。）に改める。

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、産業構造や働き方、住まい方、人と人とのコミュニケーションのあり方の変化など、新しい生活様式への移行が進んでいる。今後、様々な分野におけるデジタル化を加速するなど、社会の変化を見据えた質の高い行政サービスを提供していく必要がある。こうした新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえて改定する。
- 検討素案に関する区民意見交換会、関係団体等からの意見聴取、電子メール等で区に寄せられた意見等を踏まえて改定する。

2 検討素案に係る区民意見交換会等の実施結果

(1) 区民意見交換会

開催日時	会場	参加者数
令和2年2月23日（日）14時～16時	桃園区民活動センター	15人

※当初、全8回の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2回目以降の実施を中止した。

(2) 関係団体等からの意見聴取

実施回数：52回（集会形式のほか、電子メールでの意見聴取を含む。）

延べ参加者数：704人

対象：中野区町会連合会、中野区民生児童委員協議会、中野区商店街連合会、中野区医師会、中野区立小・中学校PTA連合会、中野区体育協会ほか

(3) 電子メール等で区に寄せられた意見

件数：56件（内訳：電子メール43件、ファクス3件、郵送3件、電話4件、窓口3件）

(4) 意見の内容

別紙1のとおり

3 改定検討素案

(1) 検討素案から改定検討素案への主な変更点

別紙2のとおり

(2) 本文

別紙3のとおり

4 区民意見交換会等の実施

(1) 区民意見交換会

区民意見交換会を「区民と区長のタウンミーティング」として実施する。なお、実施にあたり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事前申込制とするとともに、定員を設ける。また、出席者には、マスクの着用を求めるなどの対策を講じる。

開催日時	会場	定員
10月18日(日) 14時～16時	中野区役所	50人
10月19日(月) 19時～21時	中野区役所	50人
10月21日(水) 14時～16時	東部区民活動センター	30人
10月23日(金) 19時～21時	鷺宮区民活動センター	30人
10月26日(月) 19時～21時	野方区民活動センター	30人
10月28日(水) 14時～16時	南中野区民活動センター	20人
10月29日(木) 19時～21時	江古田区民活動センター	25人
11月 1日(日) 14時～16時	中野区役所	50人

(2) 意見募集

電子メール、ファクス、郵送で、11月2日(月)まで、区民等から意見を募集する。

(3) 周知方法

なかの区報10月5日号や中野区ホームページへの掲載等により周知する。

5 その他

改定検討素案で描くまちの姿について、現在の中野のまちに対する区民の実感を把握するため、「2020 中野区区民意識・実態調査」において調査を行う。

6 今後のスケジュール(予定)

	基本構想	基本計画及び区有施設整備計画
令和2年10月	改定検討素案に関する意見交換会等の実施	
11月		
12月	検討案の報告 検討案に関するパブリック・コメント手続の実施	骨子の報告
令和3年 1月		素案の報告
2月		素案に関する意見交換会等の実施
3月	改定	
4月		
5月		
6月		案の報告
7月		案に関するパブリック・コメント手続の実施
8月		策定

**検討素案に対する主な意見の概要及びそれに対する区の考え方
・改定検討素案への反映状況**

NO	検討素案に対する意見・質疑	区の考え方・改定検討素案への反映状況
「1 改定の背景」に関するもの		
1	「1 改定の背景」は、中野区基本構想審議会の答申のように課題を認めた上で、それぞれの展望を示すことが必要ではないか。そうしないと、「2 10年後に目指すまちの姿」との連続性が見えない。	「改定の背景」において、中野区を取り巻く社会経済状況や課題、区の特長や将来の展望・方向性を整理した上で、「10年後に目指すまちの姿」を描く構成として、連続性を持たせている。
「2 10年後に目指すまちの姿」大切にすることに関するもの		
2	「中野の最大の財産は人」とあるが、どのまちにおいても、最大の財産は人だと思う。なぜ、このようなことを記載したのか。	基本構想は、中野区に関わるすべての人々にとっての共通目標として策定するものであることから、大切にすることとして、すべての人の人権や生き方、個性や価値観の尊重とともに、中野の最大の財産は人であるという視点も、あえて明記した。
3	「互いに力をあわせる協働と、新たな価値を創造する協創を深めます」とあるが、「協創」とはどのような意味か。また、「協創を深める」という文章に、違和感を感じる。	「協創」とは、協働から、新たなまちの価値や地域の力を創り出すことを示している。協創を生み出し、さらに浸透させていく、という意味合いで「協創を深める」という表現を用いている。
「2 10年後に目指すまちの姿」の全般的な事項に関するもの		
4	区が作成した資料をみると、区民の多くが中野に住み続けたいと望んでいることから、特に都市基盤やまちづくりなど住みやすい生活環境の確保を重視してほしい。については、4つのまちの姿の記載順を逆にしてほしい。	まちの姿の記載は施策の優先順位で並べたものではなく、全体像として描いている。まちの姿（1）は、まちの根幹の理念や社会のあり方を描き、（2）・（3）は、暮らしの質を高めるための教育や福祉などについて、成長の段階に応じて描き、（4）は、安全・安心な暮らしを支える都市基盤やまちづくりなどを描いたものである。
5	子育てや地域包括ケアに関する記載に比べ、経済活動についての記載が少ないように思う。	経済活動については、まちの姿（1）「地域経済活動を活性化させます」において描いているほか、4つのまちの姿全体に経済活動が関わっていると考えている。
「2（1）人と人がつながり、新たな活力が生まれるまち」に関するもの		
6	基本構想は、区民一人ひとりの問題意識によって初めて成立するものだと思うので、「多様性により新たな価値をつくり出します」という表現は、「多様性により新たな価値を一緒に作りましょう」とすべきである。	基本構想は、行政だけでなく、中野区に住むすべての人々や、中野のまちで働き、学び、活動する人々の共通目標として策定するものであることから、このような表現を用いている。
7	「性的指向」とあるが、どのような意味か。	人の恋愛・性愛がいずれの性別を対象とするかを表している。
8	「地域の特色や今までにない新たな価値」とあるが、どういうことか。	国籍や文化、年齢、障害、性別、性自認や性的指向などが異なる人たちに向けたサービスなどが生まれ、新たな価値や特色となっている姿を描いている。
9	男女共同参画の視点から、「性差の無い」という言葉を盛り込んでほしい。	男女共同参画の視点は、「多様性により新たな価値をつくり出します」に「性別、性自認や性的指向などにかかわらず」という表現を用いて記載している。
10	「地域愛」とあるが、どのような意味か。	自身が暮らし、働き、学び、活動している地域に対して、愛着を持つことを表している。

NO	検討素案に対する意見・質疑	区の考え方・改定検討素案への反映状況
11	「それぞれの強みを生かし」とあるが、「強み」という言葉だと、弱みは生かせないように感じるので、「特性」や「持ち味」などの表現にした方がよい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
12	「地域の課題を自ら解決」とあるが、必要に応じて他者の助けを借りられることこそが必要だと思う。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
13	「遊び心」とあるが、どういう意味か。	中野で展開されている多様な文化芸術やコンテンツから生み出される心のゆとりや楽しみを表している。
14	「地域経済活動を活性化させます」について、人口減少・高齢化の進行により、日本市場が縮小するとともに、日本企業が海外に拠点を移すことが想定される。そのため、地元企業の持続的な発展、国内外からの企業の転入による新たな市場、雇用促進について盛り込んでほしい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
15	「生活をより豊かにする付加価値の高いサービスをはじめとした産業」とあるが、分かりにくい。簡潔に「生活をより豊かにする商品・サービス」とした方がより区民がイメージしやすいと思う。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
16	「商店街は、多彩な社会的役割を果たしつつ」とあるが、どういうことか。	商店街が、小売りや飲食に留まらず、防災・防犯活動やイベントなど、生活に必要な幅広い機能を持つことを表している。
17	商店街について、例えば、ナショナルチェーンの店舗の経営者は地域の人ではないため、地域活動に目を向けず、商店街活動に参加しない場合も多いと思う。10年後に商店街が地域コミュニティの核でいられるのか。	商店街の活性化のためには、個店の経営力や魅力を高めたり、魅力ある店舗の進出・出店を進められるような取組が必要だと考えている。今後も商店街の組織力強化を支援し、より魅力あるものとなるよう、連携を進めていく考えである。
18	「東京の新たな活力」とあるが、東京については東京都が責任をもつべきことなので、こうした記載は不要だと思う。	東京都内における中野区の役割や位置づけなど、区としても広域的な視点を持ってまちづくりを進めていく必要があると考えている。
19	「東京の新たな活力」とあるが、「活力」という言葉は、繁華街やビジネス街に合う言葉であって、職住接近の中野のまちには合わない。「活力」という言葉を「豊かさ」に変えた方がよい。	基本構想は、区民の豊かな暮らしを実現するために策定するものであり、これを実現するための一つとして「活力」が必要だと考えている。
20	「にぎわい」という言葉があるが、にぎわいよりも、住みよいまちにしてほしい。近年は、中野駅周辺が賑わい始め、近寄りがたくなっていると感じる。人が多いことはマイナス面もあることを加味してほしい。	中野のまちの魅力を高めていくためには、活力やにぎわいといった要素も必要と考えている。まちの姿（1）では活力やにぎわいをテーマに、（4）では安全・安心や快適さをテーマに10年後に目指すまちの姿を描いており、いずれの視点も持ちながら、まちづくりを進めていく考えである。
21	「東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信します」について、どこにでもあるような駅前再開発ではないということをビジョン化するため、多様性を活かした新たな価値の創造について盛り込んでほしい。	多様性による新たな価値の創造については、中野駅周辺に限定することなく、「多様性により新たな価値をつくります」として別に記載している。
22	「東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信します」について、区内全体への波及が必要だと思うので、その旨を盛り込んでほしい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
23	中野駅周辺の位置付けは、まちの姿（1）よりも（4）とする方が、より生活者としての区民に寄りそったものとなる。安全・安心をベースにした「にぎわいの拠点」という意味合いから親和的である。	安全・安心のまちづくりは、区全域で実施していくことであり、中野駅周辺も同様である。中野駅周辺まちづくりは、多様な経済・文化活動に親和性が高いため、まちの姿（1）に位置づけている。

NO	検討素案に対する意見・質疑	区の考え方・改定検討素案への反映状況
「2（2）未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち」に関するもの		
24	「すべての子どもの命と権利を守る体制が整っています」とあるが、どのような状況にあっても、子どもの命と権利を一番に守るということを記載すべきだ。体制が整わないときでも、子どもの命と権利を守るため最善を尽くす、という意味が重要だと思う。	10年後に目指すまちの姿が実現した状態を記載しているため、こうした表現を用いている。どのような状況にあっても、子どもの命と権利を守ることが重要であると考えている。
25	「すべての子どもの命と権利を守る体制が整っています」に、被虐待児へのケアについて盛り込んでほしい。	被虐待児へのケアも含めて、すべての子どもの命と権利を守る体制が整っている姿を描いている。
26	「学校や幼稚園、保育園などがつながり」とあるが、「つながり」という言葉は具体性に欠けるため、表現を変えた方がよい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
27	「地域と連携・協働することで、特色のある教育が生まれています」とあるが、地域だけでなく家庭も連携する必要があるため「地域と連携・協働することで」に「家庭」という言葉を盛り込んでほしい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
28	「社会の変化に対応した質の高い教育」や「特色のある教育」とあるが、今の社会や子どもの育ちにとって大切なものをどう捉えるかによって違いが出ると思う。時代が変わっても、子どもにとって大事なことは、子どもが自ら探求したり、夢中になってやりたいことに取り組める環境があることであり、それによって学び生きる力が育っていくと思う。	まちの姿（2）で、子どもたちが主体的にチャレンジしながら成長している姿を描いている。子どもたちが自分たちを取り巻く環境の現状や課題を捉え、様々な人々と協働しながら、その課題解決のために主体的に追究し、取り組んでいくことは、時代が変わっても子どもたちにとって大事なことだと考えている。
29	「まち全体の子育ての力を高めます」とあるが、まち全体の子育ての力を高めるには、学校が地域に開かれることや児童館が地域の子育て支援拠点として役割を果たすことが欠かせないと思うので、その旨を盛り込んでほしい。	「社会の変化に対応した質の高い教育を実現します」で、「地域と連携・協働する」という表現を用いて描いている。地域の子育て支援拠点については、基本計画の策定において、具体的に検討していく。
30	駅前のにぎわいも大事だが、人々が生活しているまちの活気が大事だと思うので、子どもと若者の元気が何よりのまちの活気だということを盛り込んでほしい。	まちの姿（2）で、子どもや若者がチャレンジする姿を描いている。
31	子どもの声があふれる街にこそ未来があるといったことを盛り込んでほしい。	まちの姿（2）の「子どもたちは、未来に向けて、チャレンジしながら成長しています」という文章で、子どもたちが元気で活発に過ごしている姿を描いている。
32	障害児やインクルーシブ教育という表現がないことから、その旨を盛り込んでほしい。	まちの姿（2）においては、障害児を区別することなく、すべての子どもを対象に「子ども」という表現を用いている。

NO	検討素案に対する意見・質疑	区の考え方・改定検討素案への反映状況
「2(3) 誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち」に関するもの		
33	冒頭の文章の表現が、一人ひとりの人生に強制力を持つように感じるので、表現を変えた方がよい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
34	「人生100年時代を安心して過ごせる体制を構築します」においては、近くの人との人間関係が大切だと考えるため、隣人を認め合い支えあえる環境づくりについて盛り込んでほしい。	隣人・ご近所同士の間関係構築や支えあえる環境づくりについては、まちの姿(1)の「地域愛と人のつながりを広げます」に記載している。
35	「生涯現役で活躍できる環境をつくります」においては、「現役で」ではなく、「生き生きと」という言葉に変えた方がよい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
36	「誰一人取り残されることのない体制が整っています」とあるが、十分整っているということはありません、常に向上が求められるべきものだと思う。	ここでは、10年後に目指すまちが実現した状態を記載しているため、こうした表現を用いている。体制づくりについては常に向上を目指して取り組んでいく考えである。
37	「適切な相談や支援につながり」とあるが、「つながり」という言葉が具体性に欠けるため、「享受でき」に変えた方がよい。	区民が享受できること、また、支援機関と区民との双方向のやりとりが行われることを含めて、「つながり」という言葉で表現している。
38	「誰もが自分らしく輝ける地域社会を形成します」に、社会教育について盛り込んでほしい。	誰もが参加できる学びについては、「生涯を通じて楽しく健康に過ごせる環境をつくります」に記載している。
39	学びの自由があるまちであるということについて盛り込んでほしい。	
40	障害福祉について、もっと盛り込んでほしい。	障害福祉については、主に、「誰一人取り残されることのない支援体制を構築します」及び「誰もが自分らしく輝ける地域社会を形成します」で描いている。基本計画において具体的な施策を示していく。

NO	検討素案に対する意見・質疑	区の考え方・改定検討素案への反映状況
「2(4) 安全・安心で住み続けたい持続可能なまち」に関するもの		
41	「時代の変化に対応したまちづくりを進めます」とあるが、ビジョンが不明確である。時代がどう変わり、どう対応しようとしているのかが語られないとビジョンにはならないと思うので、より明確な記載に変えた方がよい。	本文に、まちの方向性を記載している。地区の特性に応じたまちづくりや連続立体交差事業・沿線まちづくりにより、駅前広場や駅へのアクセス道路などの都市基盤整備を行うことで、まちの安全性・快適性・利便性を向上させる「時代の変化に対応したまちづくり」を進めていく考えである。
42	「環境負荷の少ない持続可能なまちをつくります」について、中野区という境界内のみを環境に配慮したものにしてほしいという印象である。しかし、今はグローバル化が進行し、中野区の活動は他国も含めた他地域からの資源流入により成り立っていることから、この点に留意すべきである。	環境負荷の少ない持続可能なまちづくりについては、世界の環境政策の動きや国・都が打ち出している方向性を踏まえ、グローバル化が進行している状況において、地域レベルで対応していくことが、地球規模での環境負荷の低減につながるものと考えている。
43	緑や花といった自然は、人間が心身ともに健康に生きる上で大切なので、そのために環境を整える、という意味合いをもつ言葉を盛り込んでほしい。	「環境負荷の少ない持続可能なまちをつくります」の本文にある「緑化推進」という言葉には、既存の緑の保存だけでなく、新たに身近なみどりを創出し、ふれあい、みどりの大切さを知らせることなどの意味を包括しており、ご意見の主旨は含まれている。
44	「安全・安心な生活環境と防犯まちづくりを進めます」とあるが、「関係機関の連携」だけでなく、地域内での様々なコミュニケーションや多様なつながりの育成も大切だと思うので、その旨を盛り込んでほしい。	ご意見の主旨を踏まえ、記述を見直した。
「3 基本構想を実現するために」に関するもの		
45	「職員力」とあるが、どういう意味か。	本文にあるように、職員には「地域に飛び出して、地域の抱える課題を見つけ出し、様々な主体との連携・協力により解決する」力が必要だと考えており、「職員力」は、そういった職員の能力を示している。
46	「職員力でまちの価値と地域の力を高めます」について、区民と協働・協創することも盛り込んでほしい。	本文にある「様々な主体と連携・協力」の「様々な主体」という言葉には、区民も含まれている。
47	最も重要なことは財政面である。社会保障費など今後増加すると見込まれる主な歳出を複数のシナリオで想定するとともに、現実的な人口推計を含めた歳入も同様に想定し「現実的な予算」を推計してほしい。	基本計画の策定にあたって、扶助費や特別会計への繰入金等の社会保障費については、少子高齢社会の実情を見込み、歳入についても、人口推計に基づいた推計を行い、現実的な財政フレームを提示する考えである。
48	「エビデンスに基づく行政運営を進めます」とあるが、エビデンスとはどういう意味か。また、横文字は極力なくし、使う場合は、注釈を入れるなど工夫してほしい。	「エビデンス」は、一般的に「証拠」や「論拠」という意味で使われている。ただし、場面や分野によっては、元の意味から派生した使われ方（科学的根拠など）をすることがある。ここでは、「多様なデータや情報を十分に検証した上での、客観的な根拠」を表している。なお、作成にあたっては、分かりやすい表現となるよう努めるとともに、注釈を入れるなど工夫していく。

NO	検討素案に対する意見・質疑	区の方考え方・改定検討素案への反映状況
その他、全般的な事項に関するもの		
49	家庭、家族といったような身近に感じられる言葉が入っていないように思う。	「子育て家庭」という言葉は使用している。区内には多様な構成の世帯がある中で、家庭や家族も含めて、身近な人のつながりが大切だと考えている。
50	「障害者」という表記を「障がい者」または「障害者」に改めてほしい。	障害者基本法等に則り、「障害者」と統一して表記している。
51	すべて網羅しており、具体性が無いと感じる。抽象的な理念を実現するために、優先順位をつけ、何をするか計画することが重要だと思う。	具体的な施策内容は、基本計画で示していく。
52	他の自治体の基本構想と差異がない一般的な漠然とした内容だと感じる。中野の歴史・伝統などを盛り込んでほしい。	「1 改定の背景」に記載した中野区の特徴を踏まえた上で、4つのまちの姿を描いている。
53	働き方の多様化や格差社会を区としてどう捉え、具体的に進めていくのか。具体的な項目を加えてほしい。	地域経済については、まちの姿（1）の「地域経済を活性化させます」に、生活困窮などの課題を抱えている人への支援については、まちの姿（3）の「誰一人取り残されることのない支援体制を構築します」に描いている。また、改定検討素案において、産業構造や働き方の変化などについての記載を盛り込むとともに、具体的な施策内容は、基本計画で示していく。
54	単身世帯の多い中野区においては、若者など単身者の中野区への関心を高め、地域活動への参加を促すことが大切だと思う。	まちの姿（1）の「地域愛と人のつながりを広げます」で若者も含め、ライフスタイルに応じた「ゆるやかなつながり」を描くとともに、まちの姿（2）の「若者のチャレンジを支援します」で描いている。
55	展望が持ちづらく、暗さが目立った内容となっていると感じる。中野区基本構想審議会の答申にあるような前向きな姿勢や積極的姿勢を描いてほしい。	中野区基本構想審議会の答申の主旨を踏まえた上で、現在の社会的課題を踏まえ、より分かりやすい構成や内容・表現となるよう作成している。
56	現在の基本構想をどう捉え、改定するのか。	現在の基本構想において、中野駅周辺の変化、西武新宿線沿線の連続立体交差事業の進展、地域支えあいネットワークの形成等の発展があったものと捉えている。一方、区を取り巻く社会経済状況や将来予測は刻々と変化を遂げていることから、これから訪れる社会を見据え、基本構想を改定することとした。

○ 意見・質疑は、区分整理の関係から、一人の意見を複数に切り分けたり、同様の趣旨の意見等を一つにまとめたりしている。

○ このほかに、検討素案に対する賛同意見や、区の事業への具体的な要望等があった。区の事業への具体的な要望等については、事業執行や新しい基本計画策定に向けた検討の参考等として取り扱う。

検討素案から改定検討素案への主な変更点

NO	頁	改定検討素案	検討素案
1 改定の背景			
1	1	<p>さらに、令和2年（2020年）、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、世界は歴史的な危機に直面しました。国内や地域社会に目を向けると、人々の生命や健康に限らず、日常生活における外出や移動、学校教育、地域経済、地域医療など様々な分野にその影響を及ぼし、感染者等に対する差別や偏見なども生まれています。一方、新型コロナウイルス感染症の収束・共生に向け、産業構造や働き方、住まい方、人と人とのコミュニケーションのあり方など、新しい生活様式への移行が進み、家庭・生活を重視する意識が高まるなど、社会全体の価値観や行動の変化が生まれており、区政運営においても対応が求められます。</p>	
2	1	<p>中野駅周辺のまちづくりの進展など、今後の10年間は、新たな中野の未来を創る大きなチャンスの時期です。さらに、AI、IoT、ビッグデータの活用などが急速に進み、社会のあらゆる場面で、デジタル革命が進展しており、区民の快適な暮らしを実現するとともに、学校教育、高齢者などの見守り、相談支援への活用など、質の高い行政サービスの提供につなげていくことが求められます。</p>	<p>中野駅周辺のまちづくりの進展など、今後の10年間は、新たな中野の未来を創る大きなチャンスの時期です。さらに、AI、IoT、ビッグデータの活用などが急速に進み、社会のあらゆる場面で、デジタル革命が進展しており、これら新技術が、区民の快適な暮らしや質の高い行政サービスの提供などへつながることが期待されます。</p>
3	2	<p>このような時代において、私たちは、安全で安心な暮らしを守りながら、中野が持つ多様な資産とまちのにぎわいを次の世代に確実につないでいくため、人々の地域への関わりとつながりのあり方を改めて見つめ直していくとともに、一人ひとりが力を発揮し、それをまちの力に変えていく必要があります。</p>	<p>このような時代において、私たちは、中野が持つ多様な資産を次の世代に確実につないでいくため、人々の地域への関わりとつながりのあり方を改めて見つめ直していくとともに、一人ひとりが力を発揮し、それをまちの力に変えていく必要があります。</p>
2 10年後に目指すまちの姿			
(1) 人と人がつながり、新たな活力が生まれるまち			
4	4	<p>○ 地域愛と人のつながりを広げます ライフスタイルや関心に応じて、場所や時間を選ばず気軽に地域で関わりを持てるような、ゆるやかなつながりが広がり、それぞれの個性を生かし、地域の課題を住民同士が協力しながら解決しています。</p>	<p>○ 地域愛と人のつながりを広げます ライフスタイルや関心に応じて、気軽に地域で関わりを持てるような、ゆるやかなつながりが広がり、それぞれの強みを生かし、地域の課題を自ら解決しています。</p>

NO	頁	改定検討素案	検討素案
5	4	<p>○ <u>地域経済活動を活性化させます</u> <u>区内産業の持続的な発展や新たな企業の参入などにより、区民の生活をより豊かにする商品・サービスが生まれ、地域経済が活性化しています。商店街は、多彩な社会的役割を果たしつつ、より魅力あるものとなっています。</u></p>	<p>○ <u>地域経済活動を活性化させます</u> <u>区民の生活をより豊かにする付加価値の高いサービスをはじめとした産業が生まれ、地域経済が活性化しています。商店街は、多彩な社会的役割を果たしつつ、より魅力あるものとなっています。</u></p>
6	4	<p>○ <u>東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信します</u> <u>都市機能が集積した中野駅周辺は、多様な経済・文化活動が行われ、区全体を持続可能な活力あるまちへとけん引するとともに、東京23区の西部における新たな活力とにぎわいのシンボルとして、世界に発信されています。</u></p>	<p>○ <u>東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信します</u> <u>都市機能が集積した中野駅周辺は、多様な経済・文化活動が行われ、東京23区の西部における新たな活力とにぎわいのシンボルとして、世界に発信されています。</u></p>
(2) 未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち			
7	5	<p>○ <u>社会の変化に対応した質の高い教育を実現します</u> <u>良好な教育環境の中で、子どもたちは、自分と他者を大切にするとともに、よりよく生きる力を身に付けています。学校や幼稚園、保育園などの円滑な接続や交流が行われ、家庭や地域と連携し、協働しながら、特色のある教育が生まれています。</u></p>	<p>○ <u>社会の変化に対応した質の高い教育を実現します</u> <u>良好な教育環境の中で、子どもたちは、自分のことを大切にするとともに、よりよく生きる力を身に付けています。学校や幼稚園、保育園などがつながり、地域と連携・協働することで、特色のある教育が生まれています。</u></p>
(3) 誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち			
8	6	<p>ますます高齢化が加速する中で、病気や障害があっても、いくつになっても自分らしく生きられるまちをオール中野で築いていきます。</p>	<p>ますます高齢化が加速する中で、病気や障害があっても、いくつになっても自分らしく生きられる、<u>誰一人取り残さない</u>まちをオール中野で築いていきます。</p>
9	6	<p>○ <u>人生100年時代を安心して過ごせる体制を構築します</u> <u>高齢者が、地域のつながりやICTの活用による見守り・支えあいと、公的サービスをはじめとした包括的な介護・福祉サービスや医療に支えられるとともに、最期まで自分らしく生きることができるオール中野の体制が整っています。</u></p>	<p>○ <u>人生100年時代を安心して過ごせる体制を構築します</u> <u>高齢者が、地域の見守り・支えあいと公的サービスをはじめとした包括的な介護・福祉サービスや医療に支えられるとともに、最期まで自分らしく生きることができるオール中野の体制が整っています。</u></p>
10	6	<p>○ <u>生涯現役で生き生きと活躍できる環境をつくります</u> <u>高齢者は、いくつになっても社会とのつながりを通じて、第2、第3の生きがいを見つけ、生涯現役で生き生きと活躍しています。</u></p>	<p>○ <u>生涯現役で活躍できる環境をつくります</u> <u>高齢者は、いくつになっても社会とのつながりを通じて、第2、第3の生きがいを見つけ、生涯現役で活躍しています。</u></p>

NO	頁	改定検討素案	検討素案
(4) 安全・安心で住み続けたいくなる持続可能なまち			
11	7	○ <u>快適で魅力ある住環境をつくります</u> 居心地が良く歩きたくなるまちなか、 <u>魅力ある公園、多様な移動環境などが整備され、快適で魅力ある住環境の形成が進んでいます。</u>	○ <u>快適で魅力ある住環境をつくります</u> 歩きたくなる歩行者空間、 <u>特色のある公園、多様な移動環境などが整備され、快適で魅力ある住環境の形成が進んでいます。</u>
12	7	○ <u>環境負荷の少ない持続可能なまちをつくります</u> 環境負荷の少ないライフスタイルや緑化推進などが、区民の生活や企業活動に <u>浸透し、脱炭素のまちづくりが進んでいます。</u>	○ <u>環境負荷の少ない持続可能なまちをつくります</u> 環境負荷の少ないライフスタイルや緑化推進などが、区民の生活や企業活動に <u>根付き、脱炭素のまちづくりが進んでいます。</u>
13	7	○ <u>安全・安心な生活環境と防犯まちづくりを進めます</u> 関係機関・地域の連携により、犯罪や事件・事故がなく、良好な生活環境が保たれるとともに、区民の防犯、消費生活、感染症などに関する意識の高まりや、 <u>行動の変化が生まれ、安全・安心な暮らしが守られています。</u>	○ <u>安全・安心な生活環境と防犯まちづくりを進めます</u> 関係機関の連携により、犯罪や事件・事故がなく、良好な生活環境が保たれるとともに、区民の防犯、消費生活、感染症などに関する意識が高まり、 <u>安全・安心な暮らしが守られています。</u>
3 基本構想を実現するために			
14	8	○ <u>持続可能な財政運営を進めます</u> 自立した自治体として、安定的な財政基盤を構築していくために、最少の経費で最大の効果を <u>挙げる持続可能な財政運営を基本とし、客観的な根拠に基づく政策形成を進めるとともに、選択と集中による最適な資源配分と、着実な財源の確保に努めます。</u>	○ <u>持続可能な財政運営を進めます</u> 自立した自治体として、安定的な財政基盤を構築していくために、最少の経費で最大の効果を <u>あげる持続可能な財政運営を基本とし、選択と集中による最適な資源配分と、着実な財源の確保に努めます。</u>
15	8	○ <u>社会の変化を見据えた質の高い行政サービスを提供します</u> 不断の改善や改革を進め、組織横断的な課題にも迅速に対応できる効果的・効率的な行政運営を実現するとともに、 <u>デジタル化を加速させながら、社会の変化を見据えた質の高い行政サービスをすべての人に提供します。</u>	○ <u>エビデンスに基づく行政運営を進めます</u> 多様なデータや情報を十分に検証し、 <u>客観的な根拠に基づいて政策を形成します。</u> さらに、 <u>組織横断的な課題にも柔軟に対応するとともに、不断の改善や改革を進め、効果的・効率的な行政運営を実現します。</u>
16	8	○ <u>危機の発生に備えた体制を強化します</u> 自然災害や感染症などの危機の発生時においても区民の生命・健康・財産が守られるよう、リスク管理や危機管理を徹底し、 <u>区民生活に密着する行政サービスの提供を維持するための仕組みと機能を強化します。</u>	○ <u>危機の発生に備えた体制を強化します</u> 危機の発生時においても区民の生命・財産が守られるよう、リスク管理や危機管理を徹底し、 <u>区民生活に密着する行政サービスの提供を維持するための仕組みと機能を強化します。</u>

中野区基本構想改定検討素案

1 改定の背景

33万人を超える区民が暮らし、商業や文化などの活動を通じて、多くの人々が集い、交流する多様な機能が調和するまち、中野。

近年、我が国は、人口減少・超高齢社会という、どの国も経験したことのない時代に突入しており、こうした人口構造の変化は、将来的には、地域経済や中野区の財政、地域コミュニティの活力に深刻な影響を与えることが予測されます。また、記録的な規模の台風や地震などの災害が全国各地で発生し、人々の生命・財産に甚大な被害を与えています。中野区は、狭あい道路や木造住宅密集地域が多いことなどから、災害時における被害の拡大が懸念されます。

さらに、令和2年(2020年)、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、世界は歴史的な危機に直面しました。国内や地域社会に目を向けると、人々の生命や健康に限らず、日常生活における外出や移動、学校教育、地域経済、地域医療など様々な分野にその影響を及ぼし、感染者等に対する差別や偏見なども生まれています。一方、新型コロナウイルス感染症の収束・共生に向け、産業構造や働き方、住まい方、人と人とのコミュニケーションのあり方など、新しい生活様式への移行が進み、家庭・生活を重視する意識が高まるなど、社会全体の価値観や行動の変化が生まれており、区政運営においても対応が求められます。

中野区は、若年層の転入者が多く、近年は外国人住民が急増しており、約120の国と地域の人など、多世代にわたり、様々な人が暮らし、訪れ、活躍するダイバーシティ(多様性)にあふれたまちです。また、伝統的な文化・芸術活動が根付くとともに、お笑い、演劇、ライブ・コンサートなどのエンターテインメントにあふれた活動が活発に行われ、多くの人々が夢や希望を抱くとともに、漫画やアニメなどのサブカルチャーの宝庫として、国内外にその魅力と独自の文化を発信し続けています。

中野駅周辺のまちづくりの進展など、今後の10年間は、新たな中野の未来を創る大きなチャンスの時期です。さらに、AI、IoT、ビッグデータの活用などが急速に進み、社会のあらゆる場面で、デジタル革命が進展しており、区民の快適な暮らしを実現するとともに、学校教育、高齢者などの見守り、相談支援への活用など、質の高い行政サービスの提供につなげていくことが求められます。

このような時代において、私たちは、安全で安心な暮らしを守りながら、中野が持つ多様な資産とまちのにぎわいを次の世代に確実につないでいくため、人々の地域への関わりとつながりのあり方を改めて見つめ直していくとともに、一人ひとりが力を発揮し、それをまちの力に変えていく必要があります。

これまで培ってきた歴史、文化、伝統、まちの魅力を大切に育みながら、人々が寄り添い、より豊かな暮らしを実現するため、新たに、私たちの共通の目標である中野区基本構想をここに定め、ともに歩んでいきます。

2 10年後に目指すまちの姿

中野区に住むすべての人々や、このまちで働き、学び、活動する人々にとって、平和で、より豊かな暮らしを実現するために、私たちは、次のことを大切にします。

- 中野の最大の財産は人であり、すべての人の人権と、あらゆる生き方、個性や価値観を尊重します。
- 人と人との交流やつながりを広げ、誰一人取り残されることのない安心できる地域社会を築きます。
- 互いに力を合わせる協働と、新たな価値を創造する協創を深めます。
- 一人ひとりが豊かな人生を歩むための新たなチャレンジを応援します。

このことを私たちは大切にし、10年後に目指すまちの姿を描きます。

「つながる はじまる なかの」

- (1) 人と人がつながり、新たな活力が生み出されるまち
- (2) 未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち
- (3) 誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち
- (4) 安全・安心で住み続けたいくなる持続可能なまち

(1) 人と人がつながり、新たな活力が生まれるまち

つながりは、安心、発想、活力の源です。様々な国籍や価値観を持った人々が集まる中野の特性を生かし、人と人とのつながりを広げ、新たなにぎわいの拠点を形成することで、地域への愛着や活力を生み出していきます。さらに、中野に暮らし、訪れる楽しさを、まち全体に、そして東京や日本全体、そして世界へと広げていきます。

○ 多様性により新たな価値をつくります

国籍や文化、年齢、障害、性別、性自認や性的指向などにかかわらず、誰もが地域の一員として暮らし、地域の特色や今までにない新たな価値が生まれています。

○ 地域愛と人をつなぐを広げます

ライフスタイルや関心に応じて、場所や時間を選ばず気軽に地域で関わりを持てるような、ゆるやかなつながりが広がり、それぞれの個性を生かし、地域の課題を住民同士が協力しながら解決しています。

○ 遊び心あふれる文化芸術をまち全体に展開します

まち全体を舞台に、中野ならではの伝統・文化や豊かな発想から生まれる遊び心ある活動が広がり、誰もが身近に親しみ、表現できる環境が整うことで、多くの人々が訪れ、にぎわいにあふれています。

○ 地域経済活動を活性化させます

区内産業の持続的な発展や新たな企業の参入などにより、区民の生活をより豊かにする商品・サービスが生まれ、地域経済が活性化しています。商店街は、多彩な社会的役割を果たしつつ、より魅力あるものとなっています。

○ 東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信します

都市機能が集積した中野駅周辺は、多様な経済・文化活動が行われ、区全体を持続可能な活力あるまちへとけん引するとともに、東京23区の西部における新たな活力とにぎわいのシンボルとして、世界に発信されています。

(2) 未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち

子どもたちは、未来に向けて、チャレンジしながら成長しています。子育て家庭は、地域社会に支えられ、安心して子育てをしています。子どもの育ちを、未来の希望として、地域全体で支えるまちを築いていきます。

○ 子どもの命と権利を守ります

子どもたちは、一人の人間として尊重されています。虐待の防止や学びの支援など、すべての子どもの命と権利を守る体制が整っています。

○ 社会の変化に対応した質の高い教育を実現します

良好な教育環境の中で、子どもたちは、自分と他者を大切にするとともに、より良く生きる力を身に付けています。学校や幼稚園、保育園などの円滑な接続や交流が行われ、家庭や地域と連携し、協働しながら、特色のある教育が生まれています。

○ まち全体の子育ての力を高めます

様々な人や団体の活動の活性化により、まち全体の子育ての力が高まっています。家庭の状況に応じた多様なサービスが提供され、安心して子どもを産み、育てられる体制が整っています。

○ 子育て世帯が住み続けたいくなるまちをつくれます

子どもと子育て家庭にとって快適な住まいや魅力的な空間・施設などが整備され、住み続けたいと思えるまちづくりが進んでいます。

○ 若者のチャレンジを支援します

若者は、幅広い交流や様々な活動の機会などを通じて、チャレンジしながら成長しています。一人ひとりの課題の解決に向けて支える体制が整っています。

(3) 誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち

一人ひとりに違いがあることは、特別なことではなく、当たり前のことです。ますます高齢化が加速する中で、病気や障害があっても、いくつになっても自分らしく生きられるまちをオール中野で築いていきます。

○ 人生100年時代を安心して過ごせる体制を構築します

高齢者が、地域のつながりやICTの活用による見守り・支えあいと、公的サービスをはじめとした包括的な介護・福祉サービスや医療に支えられるとともに、最期まで自分らしく生きることができるオール中野の体制が整っています。

○ 生涯現役で生き生きと活躍できる環境をつくります

高齢者は、いくつになっても社会とのつながりを通じて、第2、第3の生きがいを見つけ、生涯現役で生き生きと活躍しています。

○ 誰一人取り残されることのない支援体制を構築します

障害や生活困窮、生活上の複合的な課題などを抱えている人が、適切な相談や支援につながり、誰一人取り残されることのない体制が整っています。

○ 誰もが自分らしく輝ける地域社会を形成します

障害や認知症の有無など本人が置かれている状況にかかわらず、個々の特性や強みを生かした就労や社会参画、様々な交流や活動などを通じて、自分らしく輝いています。

○ 生涯を通じて楽しく健康に過ごせる環境をつくります

中野で暮らすうちに自然と健康的なライフスタイルが身に付く環境が整うとともに、子どもから高齢者まで、自分が関心のある運動・スポーツや学びなどに楽しみながら取り組んでいます。

(4) 安全・安心で住み続けたいくなる持続可能なまち

まちづくりは、人と人、歴史と未来をつなぎ、安全・安心とまちの魅力を形づくるものです。地区の特性に応じて、あらゆる災害に強く、犯罪や事件・事故がなく、いつまでも住み続けたいくなる持続可能なまちを、多様な主体の協働により築いていきます。

○ 災害に強く回復力のあるまちづくりを進めます

防災まちづくりの推進や地域の防災力の向上などにより、被害を最小限にとどめ、早急に復旧できる回復力のあるまちづくりが進んでいます。

○ 時代の変化に対応したまちづくりを進めます

地区の特性に応じたまちづくりや連続立体交差事業の進展などにより、駅周辺を核としたまちの安全性・快適性・利便性が向上し、時代の変化に対応したまちづくりが進んでいます。

○ 快適で魅力ある住環境をつくりま

居心地が良く歩きたいなるまちなか、魅力ある公園、多様な移動環境などが整備され、快適で魅力ある住環境の形成が進んでいます。

○ 環境負荷の少ない持続可能なまちをつくりま

環境負荷の少ないライフスタイルや緑化推進などが、区民の生活や企業活動に浸透し、脱炭素のまちづくりが進んでいます。

○ 安全・安心な生活環境と防犯まちづくりを進めます

関係機関・地域の連携により、犯罪や事件・事故がなく、良好な生活環境が保たれるとともに、区民の防犯、消費生活、感染症などに関する意識の高まりや、行動の変化が生まれ、安全・安心な暮らしが守られています。

3 基本構想を実現するために

目指すまちの姿を実現するため、次の原則を基本に区政運営を進めていきます。

○ 区民に信頼される対話と参加の区政を進めます

区民への積極的な情報提供と、十分な説明責任を果たし、区政への参加を促し、意思が適切に区政に反映される機会を充実するなど、対話の区政を進めます。

○ 職員力でまちの価値と地域の力を高めます

区職員は、地域に飛び出して、地域の抱える課題を見つけ出し、様々な主体との連携・協力により解決することで、ともにまちの価値と地域の力を高めます。

○ 持続可能な財政運営を進めます

自立した自治体として、安定的な財政基盤を構築していくために、最少の経費で最大の効果を挙げる持続可能な財政運営を基本とし、客観的な根拠に基づく政策形成を進めるとともに、選択と集中による最適な資源配分と、着実な財源の確保に努めます。

○ 社会の変化を見据えた質の高い行政サービスを提供します

不断の改善や改革を進め、組織横断的な課題にも迅速に対応できる効果的・効率的な行政運営を実現するとともに、デジタル化を加速させながら、社会の変化を見据えた質の高い行政サービスをすべての人に提供します。

○ 危機の発生に備えた体制を強化します

自然災害や感染症などの危機の発生時においても区民の生命・健康・財産が守られるよう、リスク管理や危機管理を徹底し、区民生活に密着する行政サービスの提供を維持するための仕組みと機能を強化します。